

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

こんにちは。本当に論議、詮議ですね、こんなところが本当の議会かなと私も思っております。もっといろいろ聞いているうちに、私が一体何を言えばいいのかなという気持ちにもなっておりますが、昨日、黒岩議員から議員には一般質問という一番大事な特権がある、それを絶対守らばいかんというようなことをお聞きして、そうだ、私もいろいろあるけれども、よし、この時間を大事にして自分の思いのたけを聞いていただきたいと思ってここに立っております。

きょうは本当にたくさん論議をされまして、きょう15番の一般質問の最後の最後ですけれども、どういうふうに、まとめはしなくてもいいと思いますが、そうなるのかなと思っておりますが、私は、きょうは自分の思いのたけを2つに絞って質問したいと思っております。

まず1つは、図書館についてですが、私も後でお話をしますけれども、先ほど諸石教育委員長さんからおっしゃったように市民のための図書館を、その図書館をさらによりよくするために、樋渡政策のもとに新しく出発しようとしている図書館に対して私の熱い思いと願いを込めて質問をしたいと思っております。

2つ目は、学校の環境についてです。

今、我が市は本当にどこからも注目されるすばらしい市です。いろんな面においてですね。教育界におきましても、県内においても、全国においても、本当にいち早いIT関係を使いすばらしい行政を残しておられます。また、先ほど来話が出ていますように、武雄市への訪問も本当にすごい人数の方が来ていただいております。そんな中で、私は1つの手紙を受け取ったんですね。これを見たときに、あら本当だな、私も気づかずにおりましたが、やっぱりこういうところこそぴしっとして、どこからだれが来られても、見てください、我が武雄市はこういうところできちっとしていますよということをしなくてはいけないなと思って、2つ目は環境について、学校内のことについて質問をしたいと思っております。

時間がないので、本当に中途半端になりますが、通告しておりましたが反対になりますが、いいでしょうか、順番。

まずは、学校環境の整備についてお尋ねをしたいと思っております。

せんだって、私のほうに来ましたのをちょっと読み上げます。「上野会長様、前回の支部長会のときにためますがEM菌できれいになったという報告がありました。私は、小学校の給食のほうに勤めていますが、給食のためますは年に1回の業者さんの委託で掃除がされる以外は産業廃棄物なので自分たちで掃除ができません。汚れがひどく表面には油が浮いて、においがひどく、ふたをあげられたものではありません。時には部屋の中に悪臭が立ち込め、子どもたちの給食を扱う私たちは、これから夏に向かうのにと悩んでいます。次亜塩素酸ナトリウムを使って消毒をしていますが、手は荒れます。私は、EMを使ってはと思っていますが、一度見に来てください。北方の給食センターは早くから使ってあると聞きます。市内

の小・中学校でEMを使って環境問題を考えてほしいと思います。」という1通の、同じ私たちの北方の婦人会の方からいただきました。

私たちの婦人会は、もう10年来からEM菌を使いながらいろんな活動をしております。私も元学校に勤める教員でありながら、こういうところには気づかずにおりました。言われて初めて、ああそこもあったんだなという。ちょっと学校から聞いてみましたが、北方も同じく五、六年前から使って、こういう問題がなかったもんですから、今度聞いて見に行きました。写真も撮ってきて、ああ本当だなと思ってきました。

では一体、その学校教育、学校の環境整備、今私が言いましたような校内の環境に対してはどのようになっているのかなということ。まずは、給食のセンターがいろんな方式になっていると思いますので、どういうふうになっているのかということをお聞きしながら、聞いていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

上野議員さんおっしゃいましたように、北方の給食センターでは平成18年からEM菌を使って浄化に努めていらっしゃるということで伺っております。その他の山内の給食センター、それから旧武雄市内では単独方式で給食をやっているわけですが、EM菌については使っていないという状況でございます。これは各学校で取り扱いが違っていて、現在のところEM菌を使っているのは北方給食センターだけということになっております。

それから、もう1つが処理の方式になりますけれども、ほとんどの学校が合併処理で行っているという状況でございますけれども、北方小学校とか武雄北中学校につきましては単独処理をやっているというところもございますし、そこに行くまでの間、ためます等のおい等が気になるという部分につきましては、各学校にお願いをしてそれぞれ対応していただいているということでもありますけれども、EM菌につきましては、上野議員さん何回となく御質問いただいておりますので、これにつきましては今後検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

学校の雑排水についての処理は、今御説明のとおりだと思います。それで、もう1つこれはお尋ねですが、現場にいた私でもよくわからなかったこのおおい、それについては教育長のほうにはそんなことは上がったことがありますでしょうか、どんなでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

ためます等のおい等につきまして、直接教育長のほうまで上がってきているということ
はございませんけれども、現場のほうでどういうふうな形になっているのか調査をしてみた
いというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

環境問題について続けていきたいと思えます。

食事が終わってからですので、午前中はちょっと控えておりましたが、このモニターを見
ていただきたいのです。お願いします。

（モニター使用）よく見ておいてください。先ほど手紙でありましたためますです。だから、
学校給食のためますですので、とても大きいです。これくらい全体ありますからね。見
ておいてください。これが1、これが2です。どこが違っているかおわかりですか。よく注
意深く見ておられた方はわかると思えますが、これは、すみません、そっちからわからない
と思えますけれども、ためますが3槽に分かれておりますが、一番たまるのはここですね。
この黄色いのは油なんです。油というのは一番水を浄化するのに邪魔をします。なかなか油
というのは分解できないんです。もう1点前のを見てください。これが1カ月ほど前のこと
です。よう見よってくださいよ。これは現在のものです。どこが違うかといいますと、今言
いましたように、この油分の分解がこうされて、底が見えてきたということです。水の底が
すね、ためますの。それから、ここところがきれいに澄んで見えて、私も言われてから
すぐに行って、どうすればいいのかなと思ってやってみたんですけれども、こんなふう
に変わってくるのです。

EM菌、EM菌と言われるので、皆さん御存じない方もいらっしゃると思えますけれども、
この油分を分解するのはバチルス菌といって、納豆菌やら放線菌やら、とても油分を分解
する有力な菌が入っているんです。その菌たちが物すごく作用してこういうふうに油分を分解
します。そして、きれいな浄化された水となって浄化槽の中に流れていくのです。こう
いう活動がEM菌を使つての浄化活動になります。

EM菌の、先ほどの手紙の中にもありましたように、北方はもう随分前から実行して
おりますが、北方の小学校では学校的にちょっと構造に欠陥があるかどうかわかりませんが、1

階のトイレというのが密閉されたような形になっているので、とてもにおいがするのです。

1階のトイレですので、2階、3階のトイレににおいが上がってくる。本当にどうしたらいいのかなということで、もう数年前から婦人会のほうで青少年育成という項目でお金を出しながらEM活性液を持っていつているんです。6年生が全校のトイレ掃除をするときにEM菌を使っています。そうすると、1年最後にいつも感謝の会というのがあるんですけども、そこへ私たちが呼ばれて行きますけれども、本当にEM菌のおかげでにおいがなくて気持ちよく過ごせました、ありがとうございましたということをいつも言っています。私たちは小学校のトイレには毎年行っております。

それから、活動としてはプール掃除です。プールの清掃のために、北方小学校のプールは25メートルと大きなプールですので、そこは北方の商工会の青年部の方がEM活性液を投入しております。私たちは、北方幼稚園の小さなプールですけども、そこにEM活性液を投入して浄化をしております。一体どういう効果があるのかといつも聞きますが、きょうは持ってきておりませんが、小学校のプール掃除は皆さんも経験があると思います。私も現役のときにプール掃除というのは嫌いでした。いつもヘドロがあつてぬるぬるして、けがした子どもは中に入れないようにしようね、ばい菌があるからということでしていたんですけども、どうだったねって聞いたら、とっても掃除がしやすかったと。ごみがあつてもさあつと取れて本当によかったと話しています。それから幼稚園のほうも、幼稚園は親さんたちがなさいますが、とても掃除がしやすかった、気持ちよく掃除ができた、汚れがついていなかったということ。そうねということで、それでは続けていこうねということでしております。だから、実践としましては、北方小学校にEMの授業もしに行っております。EM菌を使いながら町内をきれいにしていこうねということで私たちは働いております。

このEM活性液が何で――すみません、長くなりますけれども、EM活性液は北方町の時代に行政のほうからいろんな援助をいただきまして、培養する工場じゃないですけど、作業所をつくっていただいたんです。そこで培養しながら、昔、北方は炭鉱町ですので、私たちの小さいころは蛍が飛んでいましたが、だんだんだんだん蛍を見なくなって、どこ行ったんやろうね、やっぱり汚れているのかなと。じゃ、これを使ってということで、まず初めは、町の取り組みとして蛍の飛び交う町にしようねということでEM活性液を使い始めました。で、このような時代になったんです。

本当に御存じない方、使っていない方、いろいろ意見があると思いますが、まずはやってみて、自然物から集めた有用微生物、これを使いながら私たちはやっぱり環境浄化をしていかななくてはならないと思います。

きょうはEM菌の宣伝みたいですけども、いい機会ですので、私はここではっきり言わせていただきます。使っていない人はいろいろ言うんですよ。くさか、どがんかと。やってみなさい。いつも市長が言うじゃないですか、口だけではだめと。だから実践あるのみ。私

は、これをどうしても学校で使っていただいて、そしてきれいにとということで、きょうはしております。EM菌については、後ほど質問がありましたら、どうぞ済んでから幾らでも受けますので、おっしゃっていただきたいと思います。

このように効果があるEM活性液を学校で子どもたちのために使って、学校からきれいになして行って、我が武雄市の小・中学校にも来てみてください、こういうところも立派ですよというようにしていただきたい。ぜひ取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘いただきましたEM菌、橘ではマイエンザを使っていらっしゃるということですが、総称して有用微生物群と言うそうですけれども、これらにつきましては相当の学校で活用していただいております。幾らか御紹介をさせていただきたいというふうに思います。

朝日小学校では、4年生が総合学習の中でEMボカシによる土づくりを行って、サクランボあたりを育てていらっしゃるということです。それから、東川登小学校ではプール掃除にこれを使っていらっしゃる。それで、悪臭が少なくなった、あるいはぬめりが少なくなった、こういう効果があらわれているということでございます。

それから、橘小学校では、先ほど申しあげましたマイエンザを掃除で使っていらっしゃる。それでトイレのおいなどが弱まったというような効果が出ているそうです。それから山内東小学校でもEM菌を使っていただいております。プール掃除、トイレ掃除等に活用していただいております。北方小学校は上野議員さんから御紹介があったとおりでございます。そのほか北方の幼稚園でもプール、こういったものに婦人会の御協力をいただいてEM菌を投入していただいているという状況で、あちこちの学校で使っていただいております。

それから、午前中に若干御説明申しあげましたけれども、学校の給食室、あるいは給食センターでは、先ほどためますに油がたまるというようなことであつたわけですが、これは正式にはグリストラップと言うそうですけれども、ここに確かに浄化槽に入る前の装置ですので油分がたまります。これを現在、市内の小・中学校、あるいは給食センターでは6カ月に1回、あるいは1年に1回定期的に掃除をして、これは産業廃棄物になるものですから処理を業者のほうにお願いしているという状況にございまして、やはり長い時間、そこに置きますとにおい等が発生をするということで、これにつきましては、今後どのようにするか検討を進めてまいりたいというふうに思いますけれども、御指摘の有用微生物群、こういったものを使うことも一つの方法だろうというふうに思っておりますが、1つは、産業廃棄物でいつもいつも出せないわけですが、小まめにこのグリストラップについて清掃を行って、油分につきましては一斗缶とか、そういったものにためておいて、ある程度たまっ

た段階で産業廃棄物として業者の方に排出をお願いする。そういう方法もあるんじゃないかというふうに思いますので、これらにつきましては保健所を中心とする関係機関と御相談をして、有効な方法がないかどうか検討して改善をしていきたいというふうに思っておりますし、上野議員御指摘の微生物群につきましても有効な活用ができないかどうか検討してまいります。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ただいま答弁ありましたように、前向きだと思いますが、今おっしゃったようにためますは半年に一遍、1年に一遍の掃除になっておりますが、今、私が見に行きましたこのためますは、個人で清掃するのに余りにも下が深過ぎるのです。だから、時々上げてこうするというのはとても不可能かなという状態です。

それから、今話がありましたように掃除をして、それを産業廃棄物としてためておいて出すということでしたけれども、そこに置いてもやはりにおいはするし、油分とかいろんなヘドロとかは分解されていないのです。私が言っておりますのは、この有用微生物群を使ってそういう悪臭を放つものを分解して、そして置きましょうということです。ですから、考える余地はないとは思いますが、本当に有用微生物群、私もここ10年来ですね、いろんなところに使ってみながら、こんなにもいいものがあるのになといつも思っております。

それから、一つこれはお礼ですけれども、今、武雄市のほうに私はこのように学校でもいかがですかと言ってはおりますけれども、武雄市のほうでは環境課のほうでEM活性液を扱っていただいております。そして、河川浄化のためにどこそこで何十本、どういう活動しますというときには環境課から回してもらっております。EMを使って全体で市として取り組んでいるのがどこかあるのかなと思って調べてみますと、武雄市だけです。やっぱりこれも武雄市だけでした。本当にすごいなど、佐賀の人からも褒められました。よかったねということで。ですから、そんなところですので、予算的にはそんなにかかりません。どうぞ、ぜひ早急に取り組んでいただきたいなと思っております。

それからまた、あわせて教育長にですけれども、環境の学習、ただ頭だけの学習じゃなくて、実践された学校に聞かれたらわかると思っておりますけれども、本当に子どもたちが有用微生物群を使って、ああこうなるんだなという実践を総合学習か何か、理科でも結構ですので、取り組んでいただければと思います。やっぱり小さいうちからいいことは教えるべきだなと思っております。

ちなみに、すみません、先ほどの蛍ですけれども、蛍は北方町で飛び交うようになりました。どうぞ見にいらしてください。紀水苑の裏、馬神、西杵の下、とにかくたくさん蛍が飛んでおります。

最後に、教育長の見解をどうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

話はこれまでも耳にしておりまして、本当にありがたく思っております。おっしゃいますとおり、小さいときに体験を通して学ぶということは、非常に生涯残るわけでありまして、また広がるわけでもあります。そういう意味で、大事に、もうやっている学校もありますけれども、市内各学校にもまた紹介し、進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ぜひ具体的に早急に取り組んでいただきたいと思います。よろしく願いしておきます。では、続いて次の質問に移らせていただきます。

図書館であります。図書館については、本当に論議、詮議されて、もう意見は出尽くしたものだと思っております。たくさんの意見を聞きながら、市民の皆さんも大部分の不安が解消されてきたんじゃないかなと思っております。私もたくさんの不安を抱えながら、全部チェックをしながら、ずっと聞いておりました。

私は、図書館について質問には出しておりますが、今、エポカルの図書館については、ああいいところだな、合併してから本当にそう思っております。景色もいいし、景観もいいし、静かだし、本当にゆっくり本も読めるし、歴史資料館もあるし、蘭学館なんて、ああこがんとあつたばいねって。企画室もあるし、展覧会ときにはあそこに行ってゆっくりさせていただいたし、本当に、ああいいなと思っておりました。ただ、この図書館の問題が出たときに、時間的なこと、それから開館日のことについては、そんな無理は言えないのかなということで黙っておりましたけれども、時間については、あらあら、高校生の親さんとか、いろんな方から何とか、勤めの方からもですけれども、時間をねということは聞いておりましたが、本当にいい図書館なのにな、何でかなと思いながら、迷っておりました。賛成と大きな声で言うべきなのか。

でも、今回いろんな意見を聞きながら、私は本当によかったなと思っております。たまたま私の娘が東京におりまして、子どもたちと一緒に日比谷の図書館とか、代官山とか行って、私に時々珍しい文具を送ってくれました。そして、とってもいいのがあるよ、お母さん、武雄にもこがんできたらいいねって、自分も武雄高校出で、高校のそばですからあつたらいいねと。そして、こんなあれが東京で——東京で発表されたのがいいか悪いかわかりませんが、それを聞いたときに、さすがねって。いつも話題になる樋渡市長、さすがねというメールが私のところに娘から入りました。私は、そがんよかところやろうかねとって、

いろいろ問題が出ておりました。図書館で飲み食いしてどうなのとか、いろんなものが出ておりましたので、ほんなごとやろうかねという気持ちもありましたが、まずは百聞は一見にしかず、行ってみなくてはならないと思って行くことにしました。

山口議員も同行して一緒に行っていました。行って本当にびっくりしました。私がいかに古い人間か。図書館ということに対してのイメージが、ずっと小さなときから図書館はこうあるべきものだということを頭に置いていたものですから、はあ、今の図書館はやっぱりこういうふうになっていくのかな、そして今の子どもたちに受け入れられて進んでいくのかなということを感じてまいりました。

それで、図書館についてですけれども、いろんな質問があつて答えはいっぱい出ておりますが、再度、市長に改めて市民の皆さんになぜって、私は理解できましたが、なぜなのかということをお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、さきの谷口攝久議員さんの御指摘で本当に腑に落ちないことがありましたので、まずそれから述べさせていただきたいと思います。

私に対して言論封殺であるとか、これはいかなる政治家であっても、その意見が対立したり応じたりというのはあるかもしれませんが、これは言っちゃいけないことなんですね。絶対に言っちゃいけないことなんですね。私がそれを主導してやっているんだったらともかくとして、この前の関係者の説明会であったにしても3時間半ですよ。私はそれは夜が明けるまでやってもいいというふうに申し上げたわけですよ。それを言論封殺と言ったり、しかもそれを質問させないというのは、こんなに汚いやり方はないと僕は思っていますよ。なおかつ、それよりも問題なのは、これは議事進行で山口昌宏議員からもありましたけれども、谷口攝久議員の3分の1しか済んでいないんですよ。実際、職員に聞いたら、全部足し上げたら質問取りに行つて答弁書をつくるまで延べ100時間以上かかっているんですよ。100時間ですよ。その間、大切な市政がおろそかになったとは言いません。その100時間があれば、さらにその100時間市民の皆さんと触れ合う時間があつたわけですよ。それが一般質問で生かされるんだつたらまだしも、全然触れられないわけですよ。しかも、これは前田副市長がさっき僕のほうに言いましたけれども、私も夢中になっていましたので、全然通告と違うことを言っているわけですよ。したがって、これは本当にちょっとここまで言うのはどうかと思ひますし、これはまた議会から反発があるかもしれませんが、今後、谷口攝久議員さんの質問取り及び答弁の作成は中止します。ですので、そういったことで私は大切な時間を市民の皆さんたちともっと触れ合う時間に充ててまいりたいと思ひますので、ぜひ議会の御理解と御協力を賜ればありがたいと思ひしております。

金輪際、質問取り並びに彼に対する答弁はつくりません。そのかわりノー通告で結構です。私が全部答えてまいります。

答弁に入りますけれども、やっぱり今まで我々はあきらめのあったと思うとですよ。あきらめが。1つは、こいは東京に行かんぎがんと触れられんやろうもんとか、それともう1つは、伊万里図書館の例が出ていました。これは私もすばらしい図書館と思いますけれども、伊万里図書館でも朝10時から夕方の6時、大体、月曜日は閉まっています。木曜日に閉まることもあります。それは私が伊万里図書館がすばらしいと思っていることと言いますけれども、あのすばらしい伊万里図書館であったにしても月曜日にしか行けない人たちだっているわけですよ。例えば、美容室を経営されている方々であったりとか、きょうは婦人会の方々がお越しになっていますけれども、家事が終わって図書館に行くことなんかできなかったわけですね、6時に閉まれば。ですので、我々からすれば本当に弱い立場の方々、なかんずく女性の方々に図書館を活用してほしいという思いがあったわけです。これは開館時間だけとだめです。それに加えて今は、本と同じ重要な話として音楽があったりとか、あるいは映画があったりとか、そういったことを含めて女性の方々を中心として、あるいは子どもたち、あるいは年配の方々もそうなんですけれども、そういう機会を提供するというのがこれからの新しい公共サービスだというふうに私は思うわけです。

その一方で、歴史的価値のある資料というのは保存しなきゃいけません。展示もしなきゃいけません。しかし、今、これは井上課長からも聞きましたけれども、例えば、企画展があって図書館にあったとするじゃないですか。ほとんど行き来がないんですよ。ほとんど。それと蘭学館、立派な資料があります。蘭学館だったにしても、私は図書館のヘビーユーザーですので、何度も行きますし、数字も聞きましたけれども、多いときで週に10人ですよ。そのために莫大な維持費をかける必要性がどこにあるんでしょうか。前、これは牟田議員の御指摘でもありましたけれども、前は観光バスが来ると、あの蘭学館があれば。たしかそうですね。そうであるとするならば、私はその価値はあると思います。展示する価値が。

しかし、莫大な維持費をかけて、本当にそれで多くの市民が御理解あるいは満足していただけるかという、それは私は重大な疑義があります。したがって、同じ税金をかけるのであれば、多くの皆様方に親しまれ、そして愛される図書館をつくらなきゃいけないと私は思っていますし、今のままでは図書館も歴史資料館も展示室も中途半端です。中途半端。ここに行き来があればまだしも、ほとんど行き来は私自身も見たことがありません。数字も出ています。したがって、私が申し上げたいのは、図書館は図書館として充実すると、歴史資料を保存するのは保存するということで充実をすると、展示は展示として充実をすると。だから、確かに今までは複合館という役割はあったと思います。今までは。そっちのほうが行き来がしやすいからあったと思うんですけど、複合館の最大のデメリットはどれもが中途半端になるということです。したがって、それを分けた上で、武雄は膨大な歴史的資料がありま

す。あるいは多くの歴史財産があります。20万冊になる図書があります。これをそれぞれ分けて、それぞれの特性に応じて保存したり見せたりするというのが私は求められていると思いますので、そういった意味で、これは議会の御判断をこれから願うことになろうかと思えます。

そういった意味で、私はこれを独断と偏見で決めちゃいけません。ですので、議会に御議決を賜った後には大規模な1,000人のアンケートをとります。1,000人のアンケートをとった上で、また方向性については市民の意思に従おうと思っています。そういったことで、我々とすれば市民のみんなの図書館、今まではともすれば、谷口攝久議員さんが使っていないとは言いませんよ。でも、私は見たことがないです。（発言する者あり）見たことないです。口先ばかりとは言いませんよ。言いませんけれども、それでも見たことはないです。したがって、私は一部の人のそういうノスタルジーも大事です。大事なだけけれども、もっと広く大きく深く、女性を中心として、かつ小さい子から年配の方々まで本当に親しめる、そういう図書館を目指してまいりたいというふうに思っております。これについては、もうこれで最後にしますけれども、市民ニーズあつての市民価値の上昇、そして市民福祉の維持向上だと思っていますので、ぜひ上野議員、女性は議会の中では上野議員さんと山口裕子議員さんですので、どんどんその発言をしていただければありがたいと思います。

最後にします。とにかく、この図書館の構想というのは本当に大きなインパクトがあつて、全国から注目をされています。これに恥じることはないような図書館にしていきたいと思っていますし、私も微力ながらそれに尽くしてまいりたいと思っていますし、かつ議会の全会一致での賛成を切にお願い申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

市長の熱い思いが皆さんに伝わったことだと思いますが、最後にまたもう一言お願いするかもわかりません。

今おっしゃいましたように、これから私たちの意見をどんどん言える場もあると思います。そして、なくてはならないと思いますし、今おっしゃったように私は2つの図書館を見てまいりましたけれども、私は日比谷図書館を見てびっくりしたのです。日比谷図書館が「日比谷図書文化館」というふうに名前が変わっているんですね。一番初めは日比谷図書館だったのが「日比谷図書文化館」に変わっているんです。そういうふうに教育ゾーンといいましょうか、一括複合の施設になって、そしていろいろ活躍をされている。ちょっと見てください。いいですか。

（モニター使用）これが日比谷の図書館の歴史文化館なんですよ。隣接したところにあつ

て、本当にしっとりしてだれもいらっしゃいませんでしたけれども、今市長がおっしゃったように、何人かでは決められない、文化のものはですね、ところがあるんじゃないかなと思いますけど、やっぱりすごいなと思いました。私は、こういうふうに1カ所にあるのが本当に夢だったんですね。それもまた今後いろいろ意見を言わせてもらいたいと思っております。

それから、これが一緒になってよかったなと思うところと、もう1つ見てください。

(モニター使用) こればかり、すみませんね。ここです。これも日比谷図書館なんです。先ほど来、今回の議会の一般質問の中でも飲食と本というので随分議論がされましたよね。でも、私はここを見たときに、ああこんなにして読むのかな、そしたら本を読みながら、汚した本を返すとか、そういう気持ちにはならないし、子どもたちもここで公共の礼儀作法というですか、そんなのもここで学べるんじゃないかなと思ってですね。ああ、これもいいことだなと思いました。

ここでは絶対、皆さんも一緒です、そこに行って本を読んだときに、こう飲みながらべらべら、絶対しませんよ。やっぱりすってなりますよ。それだけよかったということです。だから、決して食べ物と本、図書館というのは切り離してではないということ、それでも守って立派に教育できるということを書いています。とにかくすごかったです。これを見られて、こんな立派なのができるとは思いませんけれども、予算とかいろいろあるでしょうけれども、やっぱり夢は描いとかんといかんなどと思ってですね。これを見たときに、ああ行ってよかったなと思いました。市長はずっと前に行かれたんだと思いますけど。それから、ここにいろんな文具が、先ほど話しました珍しい文具がいっぱいあります。私は、本を読まない人でもこんなにそこら辺にない珍しい文具があったら、ちょっとプレゼントにいいからあそこに行ってみようかなと若い人はなるんじゃないかなと思ったりですね。複合的なものがいろいろ出てくるんじゃないかなと。だから、本当にいいなと思って見てまいりました。

今、市長がおっしゃったように、まだまだ建てるに当たってはいろんな問題が山積していると思います。でも、私たちは住民の皆さんの負託を受けている議員ですから、いろんな意見を聞きながら、これからいい図書館になるように頑張っていきたいと思っております。

最後に市長、皆さんに一言。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはCCC、TSUTAYAの増田社長と私で合意を取り交わした文書の中にもあるんですけども、9つの市民価値に加えて、上田雄一議員にお答えしましたとおり、郵便で図書館の本が返せるということを含めると、順不同になりますけれども、まず図書館がどういうふうに変っていくかということを示すべたいと思います。

まず、開館時間が大幅に延長になります。これは365日、朝9時から夜9時までになりま

す。今までの図書館の開館時間、これはきのうの吉川里己議員からありましたけれども、総開館時間が今の1.9倍になります。それと、収蔵資料の大幅な増大を行います。ですので、今20万冊と言っておりますけれども、CCCと今内々話をしておりますけれども、もっとふやそうと、あとプラス6万ふやそうということになっておりますので、こうなったときに莫大な資料が市民の皆さんたちの目の前にあります。これは今までどこに行っても借りられなかった本なんですよね。これが武雄市民であるがゆえに、あるいは図書館を活用される、きょう多くの方々が見えられていますので、武雄市外の方々でもこの図書館に来ればそういった26万ぐらいの知に触れられるということになります。

そして、よく待つじゃないですか。図書館の本を借りるときに、きょう教育委員もお見えになっていきますけれども、前に1回一緒に待ったことがありますので、急いでいるときあるじゃないですか。そのときは、横にセルフPOSシステムというのをつくります。ですので、もちろん司書の方々に渡してこの本を貸してくださいというのもあり得るんですけども、横に数台セルフPOSシステムがあって、急いでいるときなんかはそこでも借りられると。機械があってピッてすればそこで借りられるというふうにして、今のところセルフPOSシステムを活用していただく方にポイントをつけようということを思って、これはきのうお答えしましたけれども、そうすると司書の方々の雑務が減るわけですよね。ですので、その司書の方々に十分な相談事務をしていただくというふうに思っています。

それと、専門知識を有したスタッフによるレファレンスの向上。今はやっぱり大学の出たての子が無理です。特に、私みたいな行政とか政治の専門知識を持っている人間が、政治とか行政についてどうなのと聞いたときには、それは無理ですもんね。ですので、これは公募になるかどうかわかりませんし、もともと才能を持っている方々が今もいらっしゃいますので、もう少し専門知識を有したスタッフによるレファレンスの向上をしたいと。特にお勧め本の提案を司書の方にさせていただこうと思っています。代官山の蔦屋書店が今そうになっていますもんね。今、代官山の蔦屋書店に行くと、例えば、私はフェイスブックのことを知りたいというふうに申し上げたら、結構やっぱり点在しているんですよ。フェイスブックの歴史とかITの部分とかって。そういうブックコンシェルジュという人が連れていってくれるんですよ。ここにこの本があって、あっちにこの本があってというふうにして、これはちょっとないので、お茶でも飲んで待ってくださいというふうにおっしゃってくださいますので、そういう機能が期待できるというふうになります。

もちろん、先ほど答弁いたしましたとおり、CDとかDVDも積極的に出してまいります。ただし、これは甘久のTSUTAYAがありますよね。甘久のTSUTAYAとは分けます。甘久のTSUTAYAがともすれば10代とか20代の子たちをターゲットにしているじゃないですか。AKB48とか、コミックとか、（発言する者あり）それは皆さんたちもそうか。ですので、そうじゃなくて、こちらのほうは歴史的な価値に頼る、例えばクラシックであると

か、ジャズであるとか、映画でも、議員映画お好きですけれども、古典的な映画とか、絵もかかれますし、絵画のものであるとか、そういうふうに歴史、文化のきちんとしたものを図書館のほうに置くというふうにして、こっちは蔦屋書店のノウハウを活用しますけれども、甘久のTSUTAYAとは少し分けようというふうに思っています。

そして、二十数万冊となると検索が非常に難しくなります。今の検索システムは江戸時代末期の検索システムです。無理です。物すごい時間がかかります。わかりにくい、使いにくい、覚えにくい。ですが、今のiPadは、これは黒岩議員が詳しいですけれども、もう入って行ってすぐ検索ができるというふうになりますので、すごくわかりやすく、使いやすくなるということで電子端末を活用するというふうになります。そして、Tカードも活用します。今までの図書館のカードを使いたい方はそのまま使っていて、そこにポイントがついたりとか、何というですかね、図書のお勧めとかという機能も使いたい方はついでにTカードを活用するというふうになりますので、何かこれはちょっと怖いなという方は図書館カードを最初に使っていて、Tカードを持っている方でそういうふうに使いたいという方はぜひそちらのほうを使っていたらありがたいというふうに思っております。

あとは、読書ができてカフェの空間をちゃんとつくりたいというふうに思っているんですね。これ、谷口攝久先生がおっしゃいましたように、物を食べながらするのはおかしいじゃないかという話もされましたけれども、でも、家に帰ってみると、もっと危ない状態になっているかもしれないですよ。だから、何で図書館の中ではだめで、家に帰ったときはわかんないじゃないですか。むしろ、図書館でそういうふうに飲みながら、あるいは食べながらということをするれば、それはみんな見ますよ。自分もそういうふうに律しますよね。ですので、谷口さんの御指摘はまたお門違いとしか言いようがありません。

あとは申しあげました郵便返却制度の導入であるとか、最後にしますけれども、そういった形で今はこの方向性だけです。9つの市民価値に加えて、郵便という10の市民価値があります。この方向性で、あとは先ほど上野議員がいみじくもおっしゃったように議論をして、こういう機能を追加しようねとか、こういう話があります。山口裕子議員と話していたときに、ぜひ緑を入れてほしいと、あの日比谷の公園みたいに。一方で、あるお母さんが芝生を入れてほしいということで、これはどなたにお答えしたかちょっと忘れて恐縮なんですけれども、今植え込みがありますよね、図書館で見えないように。あの植え込みを取っ外して、あの植え込みにも物すごくお金かかっているんですよ、維持費に。ですので、取っ外した上で、下を芝生にして、そこのところにそこからでも入っていける壁にすると。しかも、そこはひさしがあります。ですので、小さい子どもたちがいるところは日陰になります。そして、少し暖かいときとか寒いときとか、外に出たいなと思っているときは日光が浴びられるというふうにして、そういう女性らしい、あるいはお母さんの視点もぜひ取り入れてまいりたいというふうに思っています。

これが今の市立図書館で、これは教育長も言っていましたけど、これが今のままでできるかといったら、絶対にできません。じゃ、指定管理者というスキームを使いますけれども、道具立てを使いますけれども、これがほかのところではできるかといったら、私はできないと思います。もしできるのであれば、それは紹介をしてほしいと思います。ですので、そういったことで難癖はもうやめてほしいと思うんですよ。難癖は。いや、ある特定のところを向いて言っているわけじゃありませんけれども、そういったことで、ぜひこれは市民総意の温かいお気持ちを今回のCCC、図書館の新図書館構想に充てていただければありがたいと思います。

長くなりましたけれども、これは壮大な挑戦になります。しかも、全国が注目しています。これは武雄市民の皆さんたちを中心にして本当に喜んでいただく公共施設になるというふうに確信しておりますけれども、ただ、そのコンテンツ、内容を詰めるのは、きょう傍聴に来られている婦人会の皆さんたちでありますし、今山区の前区長さんでもありますし、さまざまな多くの皆さんたちが自分たちの図書館だと、ワンマン図書館じゃなくみんなの図書館ということになることを期待申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

みんなの図書館に対する思い、それから市長の頭に思い浮かべる全体のイメージ、皆さん思い浮かんできましたか。何となく思い浮かんできたと思います。でも、どうぞ、これがしっかり地について世も知り集う、そしてみんなが楽しく、また行こうという私たちの図書館になることを願っております。みんなでいろんな意見を出し合いながらつくり上げていきたいと思っております。本当にわくわくしながら待っております。

一般質問を終わります。